

棚倉町下水道事業経営戦略プラン【概要版】

下水道事業経営戦略プラン改定の目的

●人口減少への対応

令和7年2月に改定された「棚倉町長期人口ビジョン」の人口推計において、今後も少子高齢化による人口減少が進む見込みであり、人口規模に見合った計画見直しが求められています。

●施設の改築・更新への対応

過去に建設した施設の老朽化も経年に伴い進行しており、維持管理や改築更新に重点を置いた経営方針を策定する必要があります。

上記の目的を考慮し、今後の下水道事業の経営方針として、令和8年度から令和17年度までの10年間における

「**棚倉町下水道事業経営戦略プラン**」を改定しました。

下水道事業の現況

本町の下水道事業は公共下水道事業及び農業集落排水事業により実施されています。

●公共下水道事業

平成3年度に事業着手して以来、町中心市街地において順次整備を進め、令和7年度末現在、下水道管きょ延長約31km、下水道処理場1箇所が整備済みとなっています。

●農業集落排水事業

平成6年度に事業着手以来、逆川地区において順次整備を進め、令和7年度末現在、集落排水管きょ延長約13km、集落排水処理施設1箇所が整備済み。(平成12年度整備完了)

●下水道接続率(下水道管渠整備済み人口に対する下水道接続済み人口の比率)

令和6年度末現在、公共下水道事業で70.7%、農業集落排水事業で75.1%となっています。

●起債残高(令和6年度末)

過去に施設建設費用を補うため、借入れを行った事業債の残高は公共下水道事業約13.2億円、農業集落排水事業約3.7億円となっています。

下水道事業の課題

●人口減少に伴う影響

少子高齢化により、将来人口は減少するものと見込まれています。人口減少は料金収入の減少を招き、経営収支悪化の要因となるのみならず、税収減少を通じて下水道事業の主要財源の一つである、一般会計からの繰入金確保にも影響を及ぼすものと考えられます。

●施設の更新計画及び投資の平準化

下水道サービスを安定して提供するため、施設の老朽化対策を行う必要があります。今後は施設の状態を考慮した改築・更新等を計画的に実施することにより施設の長寿命化を図り、投資の平準化する必要があります。

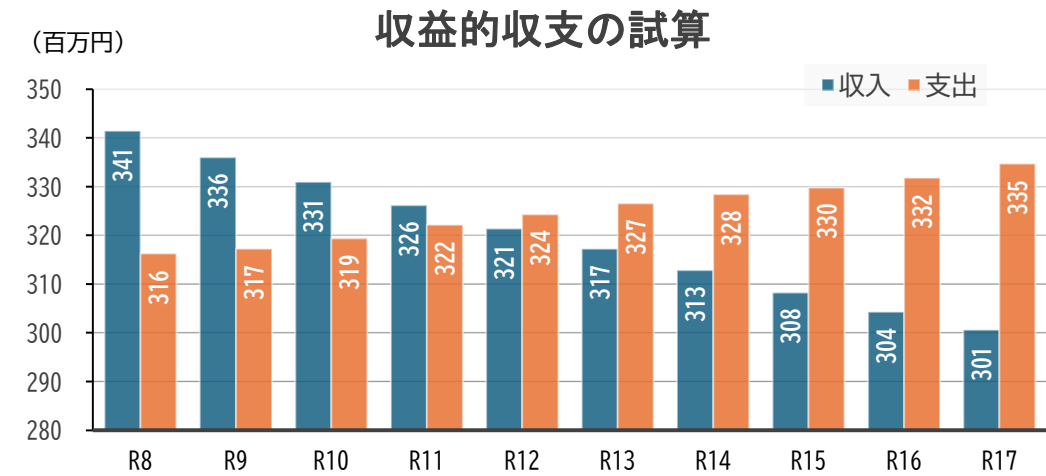
下水道事業経営環境の見通し

●事業運営に関わる収支(収益的収支)の見通し

下水道事業を安定的に運営していくためには、必要となる支出(施設維持管理費等)を収入(下水道料金等)で賄うことが求められています。

今後の収支状況について、支出は物価上昇等により増加が、収入は人口減少に比例して減少が見込まれています。

今後10年間の収益的収支の試算した結果を下图に示します。



下水道事業経営の基本方針

1. 施設維持管理の効率化

・民間活力の活用を検討することにより維持管理コストの縮減を図ります。

2. 施設の計画的な改築更新

・公共下水道事業では下水道ストックマネジメント計画に基づき、施設の計画的な改築更新を実施します。
・農業集落排水事業では、農業集落排水施設機能保全計画に基づき、施設の計画的な改築更新を実施します。

3. 加入の促進

・未加入人口の積極的な接続勧奨を図り、加入の促進を図ります。

4. 財源の適正化

・将来人口及び有収水量の見込みに基づいた収支計画の再検討を行い、適正な料金体系の検討を行います。